

# MOTIVATION FACTOR

執筆 山口 博

モチベーションファクター株式会社  
代表取締役



円滑な  
コミュニケーション  
役立ち！

特別  
企画

## 自分と周囲の モチベーションを 向上させるポイント

金融機関で働く若手行員の中には、自身のモチベーション管理に悩みを抱える人も多いのではないのでしょうか。そこで本特別企画では、モチベーションの向上・維持のカギとなる「モチベーションファクター」の基本的な考え方やその見極め方、活用法を紹介します。

# モチベーション向上のカギ！ モチベーションファクターって なあに？

ここでは、モチベーションの向上・維持を実現するポイントであるモチベーションファクターの、基本的な考え方について紹介します。

## 「環

境が変わりモチベーションが上がらない」

「世代が異なる相手と話が合わない」「取引先との商談がはずまない」……こうした悩みを持つ人が増えています。

そのうちに、「環境のせいなので自分ではどうしようもない」「世代が異なるので対処のしようがない」「話が合う取引先だけを相手にしていけばよい」と考えて、諦めの境地に達してしまうこともあります。

実は、たった一つのスキルを駆使するだけで、自分や相手のモチベーションをすぐに上げることができ、さらに社内外の相手との対話がはずむようになり、周囲を巻き込みながら、成果を上げることができる方法があるのです。

## モチベーションファクターとは意欲を高める要素

そのスキルとは、モチベーションファクターを見極めて活用

する発揮力です。モチベーションファクターとは、意欲を高める要素で、**図表1**のように2志向6要素に分かれます。

例えば、チャレンジすることで意欲が高まるのであれば、「目標達成」のモチベーションファクターの持ち主であると捉えます。創意工夫をすることならば「自律裁量」、責任を全うすることならば「地位権限」の持ち主です。協力し連携することで意欲が高まるのであれば「他者協調」、リスク回避であれば「安定保障」、バランスをとることであれば「公私調和」のモチベーションファクターが高いと見極めます。

目標達成、自律裁量、地位権限で意欲が高まりやすい人を「牽引志向」の人、他者協調、安定保障、公私調和がより強い人を「調和志向」の人と称します。

モチベーションファクターの高低は善悪を示すものではありません。

成果を上げるために、目標達成の人も、地位権限の人も貢献します。一人で独自の工夫をする自律裁量の人も、みんなで協力して取り組む他者協調の人も役立ちます。

目標達成の人はリスクを許容しやすいですが、逆にリスクを慎重に捉える安定保障の人も成果を上げるためには必要です。様々な関係者や、タスクのバランスをとる公私調和の人も成果を上げるために貢献します。したがって、どのモチベーションファクターを持っているから良い、悪い、ということではありません。

まずは、自分のモチベーションファクターが何かを把握することで、自分の意欲を高めやすくなります。さらに相手のモチベーションファクターを見極めることができれば、相手の意欲を高め、仕事でもプライベートでも相手を巻き込みやすくなります。